



2020年10月
第74号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 山崎 忍
編集人 文カンホ、後藤貴子
印刷所 ヨベル

キリストと共に生きる者に

理事長 小寺 隆



の優しさや醜さが見えています。

コロナ禍のために、神学院創立以来、初めてオンライン授業が行われています。SNSなどネット時代のゆえに緊急事態宣言の中にあっても、授業が行えたことは不幸中の幸いです。

コロナ禍は、「歴史は繰り返される」ことを教えています。歴史をさかのぼれば、スペイン風邪、コレラ、ペスト、天然痘など、人類を脅かしてきた感染症との戦いがありました。今のわたしたちも感染症との戦いの中にあつて、人の心のあり様、つまり、人

わたしが介護の仕事に携わるようになって、十数年になりましたが、介護は「感情労働」と言われています。人と人が直接対する仕事では、お互いの感情が時にぶつかることがあります。その中でも介護の仕事は、他人が直接利用者のさんの身体に触れることがある仕事なので、時に感情の衝突が生じます。介護者の言葉や行動などで、利用者が怒鳴ったり感謝したりします。介護者も利用者さんの言動に動揺し、傷つき涙したり、あるいは温かい言葉で疲れがいやされたりしています。

しかし、今「感情の劣化」が問題になっています。あおり運転など自分の感情がそのまま行動となり、人を傷つけることが生じています。コロナに感染した人を非難する人もいます。他人の行動に対して自分の「正義」で感情的に非難することが目立ってきました。その原因の一つに「感情の劣化」があると言われています。多くの人が簡単に自分の負の感情を行動に移し他人にぶつけています。SNSでは、匿名であることを隠れ蓑にして、特定の人を大勢で非難し、そのために自殺に追い込まれた人も出ました。

「感情の劣化」は人間関係が希薄になり、人間関係を健全に結ばなくなってきた結果ではないかとされています。ですから、聖書が最も大切な戒めとして記している、「隣人を自分のように愛しなさい」との言葉は非常に重要な意味を持っています。一時の感情によって行動するのではなく、自分の意志で選択し行動することを主イエス・キリストは求めているのです。愛することも感情の現れですが、相手との関係によっては、愛せない相手も少なくないのです。しかし、主イエス・キリストは、サマリヤ人の例えで、自分が隣人を選ぶのではなく、傷つき助けを必要としている他者の隣人にあなたはなれますかと問うています。

自分が好意を抱いている人、自分を大切にしてくれる人を愛することは簡単です。しかし、「汝の敵を愛せよ」とあるように、自分に敵対する人、自分を攻撃する人、自分を憎く思っている人に対しても同じように愛するかと主イエス・キリストはわたしたちに問うています。なぜなら、主イエス・キリストは十字架の上で、自分の命を奪おうとする目の前の人たちのために神の赦しを求めたからです。

主イエス・キリストにとつて、愛することは感情ではなくご自

身の意志的選択と意志的決断の結果です。ゲッセマネでの祈りはその選択と決断が簡単でなかったことを示しています。ルカ福音書には「イエスは苦しみもたえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴のように地面に落ちた」とあります。

「感情の劣化」は人間の意志的決断よりも、感情のまま、つまり自分の好き嫌いで行動している結果であると言えます。動物は本能に従って生きています。自分を守ることが優先されますが、動物は意味なく他者を傷つけることはしません。しかし、人間の好き嫌いは自分を優先する結果、他者を利用し傷つけます。これは非日常ではなく、当たり前のように入れた私たちの日常の出来事として起きています。それに対して、主イエス・キリストが最も大事な戒めとして示した、「隣人を自分のように愛しなさい」は自分の好き嫌いで実行できるような簡単なものではありません。自分の意志で嫌なことでも選択し決断することを求めています。それを実行するために不可欠なのはキリ

ストの愛に満たされることです。キリストの十字架の道はまさに愛に基づく選択と決断の結果です。

現在のコロナ禍の混沌とした時代。わたしたちに不安や恐れが襲ってきます。その中であって不安や恐れから抜け出すには、わたしたちの意志的決断が求められています。天地創造の時に混沌と闇がこの地上を支配していましたが、神は「光あれ」と言われたその時光が輝いたのです。混沌と闇の中にあっても、主イエス・キリストがわたしたちと共におられること、またキリストが私たちのために命をささげられる程に私たちが愛していること、そのキリストが示されたその愛を受け入れてその愛を信じて歩む時に、わたしたちの不安や恐れは消えて、キリストの愛の光がこの地に輝くのです。



◆神学院夏期派遣報告◆

「全てを益としてくださる神」

4年 桑原晴美

神学生4年目の夏期派遣は印象深いものでした。

コロナ状況下において若枝教会では、教会学校のキャンプが中止となりました。

「子ども達のための夏のイベントを何とか行いたい」そこには子ども達に聖書のメッセージを聞かせたいという教会学校のスタッフの熱い願いがありました。何度も話し合い、感染対策を徹底させ、シミュレーションを行い実際に踏み切りました。時間も1時間半から2時間ほどのもので、メッセージはしっかり語られましたが、レクリエーション、工作なども最小限、フランクフルトとかき氷を無言で食べるというもので、果たして子ども達は楽しいと思ってくれるだろうかと思念されました。しかし、子ども達が

教会に集まるという事はこんなにも教会が活気づくものなのかと思ひ知らされました。子ども達もスタッフも笑顔と元気に溢れました。このイベントを実施した手応えにより、スタッフ達に、秋からの教会学校をオンラインから感染防止に配慮した通常の礼拝に戻そうという力が与えられたように思います。

また8月後半には、オンラインであるが故に「韓国プルシム教会祈禱会」が実現しました。この夏は神学生がいくつかの奉仕を全員で行うことが出来ました。それぞれ担当を決め準備を進めたのですが、私はプルシム教会奉仕の担当となり、事前に色々と連絡を取らせて頂きました。その段階から交わりを通して暖かいものを感じました。

通訳者を通しての説教も初めてで、通訳者の柳神学生とも話し合いの時間を取りました。

自分の感じている事を別の言語で理解してもらおう事の大変さも知りましたが、それでも、神を信じる私たちは、キリストにあって一つになれる事も感じました。



4年生報告

様々な困難の中でも、ローマ8・28は真実である事を教えられた夏でした。

最後の夏期派遣

4年 柳泰鉉

私はコロナウイルスの影響で前期は山形の実家でオンライン授業を受けました。夏休みに入り夏期派遣には行けなくなりまし

たが、毎週日曜日は山形南部教会の夕拝に参加していて、今回は子供キャンプに参加しました。神学院の料理長として、キャンプでも料理や奏楽などの奉仕をしました。南部教会の子供たちは、遊ぶときは精一杯遊び、集会中は集中してメッセージを聞きま

す。今年も相変わらず純粋な信仰を持って集会に参加し、積極的に祈ろうとする子供たちを見て、私も励まされ、恵られました。

その後、8月24日に神学院に戻り、オンラインで玉川キリスト教会の祈祷会に参加しました。今年初めて神学生全員が集まって共に賛美し、祈りを捧げることができました。

最後の奉仕は韓国のプルシム教会と合同で行った祈祷会でした。神学生が賛美リード、証し、メッセージ、祈りの導きなどを全てすることになりましたが、皆が仲良く協力して楽しく準備することができました。私はメッセージの通訳を担当しました。桑原さんのメッセージを韓国語で話す役割でした。最初通訳を頼まれたとき、心配と不安でいっぱいでした。

た。何回か通訳の経験があります。なぜか通訳をすると緊張しすぎて自分が何を言っているのか分からないほど頭が真っ白になって、困ったことがたくさんあったからです。しかし今回は同時通訳ではなく、事前に原稿を準備したので無事に奉仕をすることができました。今回の派遣で、オンラインでも素晴らしい集会ができることを知り、遠く離れていても主の愛の中で皆が共に祈り、賛美ができることは素晴らしい事だと思いました。4年生として最後の夏期派遣でしたが、全てが神様に守られ、恵まれた夏期派遣でした。

夏期派遣を終えて

3年 岡 聖志

いつも私たち神学生のためにお祈りとお支えをありがとうございます。今年の夏は通常のような派遣は行うことができませんでしたが、オンラインで神学生全員で奉仕できたことが本当に感謝でした。性格も賜物も違う一人

ひとりですが、それぞれ持っているものを分かち合いながら一つのものを作ることができたのは、本当に嬉しいことでした。

また、神様は場所を超えて働かれる方なのだ、ということも体験させていただきました。このような状況の中で、いまだにいつものように集まることは難しい状況にあります。その中でもオンラインのツールを活用しながら、場所が違っても一つの教会、主の体なのだ、ということをも身をもって感じました。特に、韓国のプルシム教会との合同祈祷会では、開始を目前にしてソウルでの集会が禁止されました。今までなら中止せざるを得ないような状況ですが、もともとオンラインでの開催であったため、プルシム教会側は各家庭から参加することで無事に祈祷会を行うことができました。そのようにして行われた祈祷会は、日韓それぞれのために祈り合う、とても恵まれた時となりました。「近くて遠い国」である日本と韓国が、キリストのゆえに「近くて近い国」になったような、そんな体験でした。



3年生報告

2020年の夏期派遣、また前期の歩みがこのようになることは、去年の時点では想像もできませんでした。なぜこんなことが起こるのだろうという思いにもなりました。しかしそのような中でもできることはたくさんあること、このような時だからこそ取り組むことができることもまた多くあることを教えていただきました。また困難の中でも神様は変わらず働いておられ、私たちの想像しない方法でみわざをなしてく

ださるのだ、ということにも気づかされました。一生忘れることのできない年になったと思います。学んだこと、また今学ばされていることをこれからも大切にしたいです。

夏期派遣で見つけた感謝

3年 船津悠大

今年度の夏期派遣は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、特別な形で持たれました。オンラインでの奉仕を募集し、私は祈祷会3回と日韓の賛美集会を、インターネットを通して行いました。今年の3月頃からの感染拡大によって、感謝よりも不平不満が多かった私ですが、夏期派遣では積極的に感謝なことを探しました。すると、このような状況の中でも、神様の恵みは変わらずに注がれており、多くの感謝なことがあることに気が付きました。

1つ目は、神学生全員で各教会での奉仕ができたことです。通常の夏期派遣では、多くても3人位で教会派遣されます。しかし、今

年はみんなで1つの奉仕をすることができました。それぞれ異なる賜物を用いながら、協力し合いながら準備することができました。まるで1つの教会として奉仕しているかのようにでした。この夏は、このような素晴らしい同労者と共に神様の働きをする機会が多く与えられて感謝でした。

2つ目は、韓国のパルシム教会と持った日韓合同賛美祈祷集会です。平時であれば、集まって顔を合わせて集会ができるので、オンライン集会を持つことなど考えもしませんでした。しかし、3月頃からオンライン集会が盛んに行われるようになったことをきっかけに、様々な可能性が開かれました。その1つがこの日韓合同集会です。オンラインでそれぞれ違う場所で集会を持ちました。が、私たちを1つとしてくださる聖霊の働きにより、まるで同じ場所に集まって礼拝しているような気持ちでした。賛美、メッセージ、祈りを通して神様が大きいに働いてくださいました。場所が離れていても、国籍が違って、主にあってキリストの体なる教会と

して1つとされる経験をしました。これからも神学生のために祈りとお支えよろしくお願いいたします。

オンライン夏期派遣での学び

2年 黒木真菜

オンライン夏期派遣の、山形南部教会ホサナキャンプでの証、福岡エルシオン教会祈祷会での説教の奉仕について報告いたします。

ホサナキャンプの子どもたちには、私が小学生で受洗したけれど中高生で疑いの心が生じたことを救い主として心から信じたことなどの救いの経験を分かち合いました。パソコンの画面越しに、子どもたちがますます私の方を見て聞いている様子が分かり、その子どもたちに向かって必死に話しました。福岡エルシオン教会の祈祷会ではマルコ4・35〜41から「共におられる主」という題で説教をしました。状況は変わっ



2年生報告

でも主の御臨在は変わらない、そして神様がモーセに「私はあなたと共にいる。これが、私があなたを遣わすしるしである。」と言われたように、共におられる主によって私たちは今ここに遣わされていく、と示され、分かち合わせていただきました。神学院のチャペルで語るけれど心は福岡工ルシオン教会の皆さんに語っている、という不思議な感覚でした。

パソコンのカメラを見て語るという今回の経験から、福音を伝えるということは決して一方的なものではなく、相手がいって初めて成り立つ、人格的な交わりの中になされるものだと思えました。同時に、例えば相手の反応が見えない時も、神様の御言葉への確信に堅く立ち、伝え続けるという使命を感じました。

オンラインで一つになれる恵みを体験しましたが、やはり派遣先の信徒の方や先生方と直接会ってお話したい、子どもたちとも一緒に遊んだり食べたりの交わりをしたい、とも思いました。それでも、様々なツールを通して神様がこの時に与えてくださる、一度限りかもしれない出会いを感謝し、自分に与えられている全てで神様の栄光を表したいと思われました。

夏期派遣の恵み

1年 松本麻椰

私は淀橋寮におりますので、夏期派遣の期間も淀橋教会での働きが中心でした。普段からAF (Agape Family: 日曜学校) でのご奉仕をさせてもらっています。この

夏もキャンプに行きたいと祈りましたが、8月に感染が全国的に拡大し数も急増したことから、泊まりで遠出するキャンプは自粛となりました。しかし代わりの恵みを神様が用意して下さい、それは教会の中で日中の時間を使っているデイキャンプという集会になりました。学校や家庭事情で来ることができない小学生もおり少人数での開催になりましたが、驚くことに、長く休んでいた兄弟や普段教会に来ることがむずかしい女の子が参加でき、工作やバトルを一緒に楽しみました。

感謝なことに、その小学生はその後礼拝によく出席するようになりました。午後には集会を行い、一人のおともだちが主イエスを信じる決心をし、神様が今年の夏も祝福してくださったことに感謝しました。

オンラインで地方教会への証などのご奉仕の機会を与えられたことも、この夏の特別な恵みでした。その一つが韓国・ブルシム教会との日韓合同祈禱会でした。コロナ感染拡大のために韓国では政府から集会の禁止令が出され



1年生報告

た時期でしたので、賛美やメッセージは神学生だけで行うこととなり、奉仕が責任重大となりました。しかし、当日は神学生全員がそれぞれ最大限以上の働きをすることができ、トラブルもなく心から祈ることができた集会となりました。振り返ると、ブルシム教会の先生から1ヶ月前、1週間前などこまめに連絡と祈りの要請をいただいたため、集会のために祈って備えられていたからこそ、聖霊様が隅々まで豊

かに働いてくださったのだと分
かりました。プルシム教会の方々
は30名ほど参加してくださり、日
本のとりなしのために祈ってく
ださる韓国の方の熱い思いに感
謝しました。

退修会報告

教務主任 本間尊広

また年末ではありませんが、今
年の神学院のキーワードは「オン
ライン」であると言えるでしょ
う。夏休み明けの退修会も本来の
2泊3日の宿泊開催を変更し、9
月8日～9日の2日間のオンラ
イン開催となりました。今年は年
度開始時からオンラインで授業
を行なってきましたので、接続は
とてもスムーズにできて、順調に
始まっていきました。

霊的な学びとしては、スタン
レー・バンクスの『聖霊による生
涯』という書物を5回の集会で学
びました。この書物を通して、わ
たし自身が主の働きに「間に合う
もの」であるのか、ということを示
され、思い巡らしました。

退修会では、毎回、神学生の夏
期派遣報告が行われます。今年は
オンライン派遣が中心で、しかも
件数が少なかったのですが、神学
生の全員が、それぞれに学んだこ
と、得た恵みを報告してくれまし
た。

オンライン開催のためにZoom
というアプリケーションを使い
ました。全員で集会をすること
も、参加者をグループに分けて分
団をすることも可能なので、学び
の後にはグループごとに分かち
合いの時間を持つて、テキストや
メッセージを通して教えられた
ことや、その他様々なことを分か
ちあうことができました。

宿泊施設を利用して、移動の車
中でいろいろ会話をしたり、一緒
に食事をしたり、自由な交わりで
互いの理解を深めることはでき
ませんでした。テキストの学び
に深く集中する恵まれた機会と
なりました。前期に手術をなさつ
た桑原信子先生が、ご体調も支え
られてご参加くださったことも
大変感謝でした。この退修会を
もって後期の学びへのよき霊的
備えがなされました。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支
えを心から感謝します。7月の関
東夏期聖会から始まった夏期伝
道期間も祝され、学生たちは、貴
重な訓練の場が与えられ、それぞ
れが霊的に成長する日々を送る
ことができました。ポストコロナ

時期を迎え、主にオンラインの形
で奉仕するようになりましたが、
学生たちを快く受け入れ、伝道の
機会をお与えくださいました諸
教会の先生方、信徒の皆様に関心
から感謝いたします。最近「ZOOM
疲れ」という言葉が流行っている
ほど、オンラインでの奉仕は、体
で仕えること以上の精神的な力
と準備が必要です。以前とは違う
形でのオンライン奉仕は、緊張し
ますし、思いがけないトラブルへ
の対処など、注意を払わねばなら
ない点がいろいろあります。しか
し学生は、多くの奉仕が与えられ
たことを喜びとし、心尽くして力
を尽くしてご奉仕しました。御言
葉どおり、いつも喜び、絶えず祈
り、どんなことにも感謝する生活

を実現しています。さらに学生た
ちに主の励ましと慰め、そして力
が豊かに注がれますようにお祈
りをどうぞよろしくお願いま
す。

神学院便り第74号では、神学院
理事長の小寺隆先生の巻頭言と
本間尊広先生の退修会の報告、在
校生による夏期伝道の恵みの報
告、そして、献金者一覧を掲載さ
せていただきました。

現在、夏期伝道、退修会を経て、
後期の授業が始まっております。
4年生はいよいよ、卒論の一時提
出を終え仕上げに取り組みなが
ら、教師試験へと備えてまいりま
す。そして11月の第一回神学院入
試が控えております。一人でも多
くの入学者が与えられるように、
また在校生それぞれの霊性、健康
が守られ、後期の学びが祝されま
すように、また指導する教師の健
康が支えられますようにお祈り
ください。





ウエスレアン・ホーリネス神学院

入試要綱

受験資格

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教教会の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

受験手続き

以下の書類を整え、本学院事務所にご提出ください（郵送可）。なお神学院所定の用紙はホームページからも印刷できます。（①～⑤は学院所定）

- ①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文（400字×3枚程度） ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

1. 入学試験日

- 第1回 2020年 11月 24日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス
 第2回 2021年 2月 9日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス
 第3回 2021年 3月 9日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス

2. 願書提出締切

試験日の2週間前までに提出して下さい。

3. 受験料2万円

願書と一緒に支払い下さい。

4. 全寮制

本学院は全寮制です。特別の事由のある場合には、通学もできます。寮から本学院までの交通費は通学事由が適当と認められた場合には援助します。また授業のある日の昼食は後援会等が援助しています。

5. 奨学金・給費・貸与

申請をして承認を受けた者は授業料、寮費、食費等についてそれぞれの必要に応じて給費あるいは貸与を受けることができます。

6. 学費・寮費

入学金	50,000円	授業料 年額	230,000円
寮費 月額	5,000円	食費 月額	15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。

※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウエスレアン・ホーリネス神学院

連絡先：〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL 03(3851)3762
 ホームページ <https://whseminary.jimdo.com/>